



あなたも消防団の一員として地域で活躍してみませんか？

消防団員募集

対象 18歳以上の市内在住・在勤・在学者
※入団には、地元の分団からの推薦が必要です。

消防団の活動には、担い手となる団員の協力が欠かせません。ともに地域を守る一員として活躍してみませんか？

詳細は、市ホームページまたは消防庁消防団オフィシャルウェブサイトをご覧ください。

問 危機管理課消防団係（内線2643）

▼市ホームページ



▼総務省消防団オフィシャルウェブサイト



学生必見！

久喜市学生消防団活動認証制度

団員として活動する学生の就職活動を応援！地域社会への貢献を認証し、証明書を交付します。地域貢献の実績を対外的に示すことができます。詳しくは市ホームページをご覧ください。



消防団の活動



災害出動



啓発活動



救命指導



防災指導

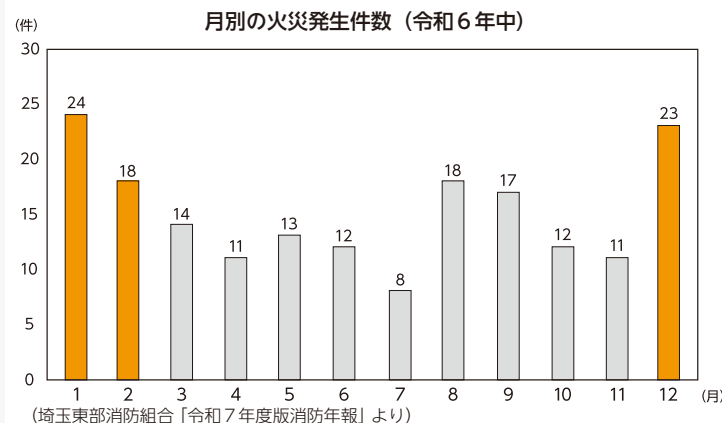
コラム

冬は火災に注意！

冬は気温が下がり、暖房機器など火の使用が増えることに加え、空気が乾燥することで、他の時期に比べて火災が起きやすくなります。

令和6年に発生した東部消防管内での火災発生件数を見ると、寒さが本格化する12月から増え始め、1月に一番多く火災が発生しています。

火災を起こさないポイントを知って、みんなで安全に過ごしましょう。



火災を起こさないための10のポイント

4つの習慣



寝たばこは絶対にしない、させない



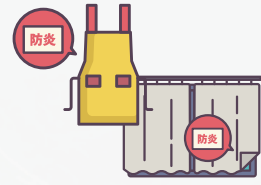
ストーブの周りに燃えやすいものを置かない



ストーブやこんろなどは安全装置付きの機器を使用する



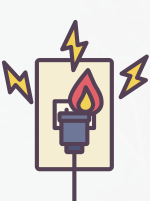
火災報知機を定期的に点検 10年を目安に交換する



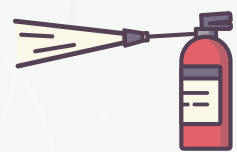
部屋を整理整頓して、衣類やカーテンは防火品を使用する



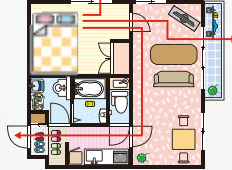
こんろを使う時は火のそばを離れない



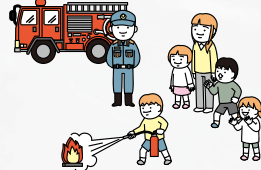
コンセントにほこりが溜まらないよう掃除する



消火器等を設置し、使い方を確認しておく



避難経路と避難方法を確認・確保し、備えておく



防災訓練など、地域ぐるみの防火対策を行う

6つの対策

団員たちは普段どのような活動をしているのでしょうか。
3人の団員に消防団での活動や想いについて聞きました。

消防団員の声

消防団は大切な居場所――



たにぐちきみひと
谷口公仁さん

所属：久喜支団2分団第2部
入団：平成24年11月

普段は都内の小学校に勤めています。土日は消防団の活動に積極的に参加していますが、団活動への参加は強制ではなく、多忙な時はそれぞれの生活や仕事を優先しています。

妻の地元が久喜市で、一緒に暮らすことになった際に「自分も久喜で何か居場所ができれば楽しいだろうな」と思い、市役所で一番先に入団の手続きをしました。消防団を選んだのは、幼い頃、父が消防用ホースを作る会社に勤めていたこともあり、消防車を間近で見ることが多く、「消防」の仕事にほのかな憧れがあったからかも知れません。

普段の活動では、出動に備えてポンプ車両や資器材の点検を行ったり、消防署や消防学校に出向いて研修や会議に出たりしています。また、所属する分団の統一訓練を年2回行っています。放水・中継送水訓練、ロープワークやホースの延長・収納訓練など、練習してきたことは実際の出動時のイメージとなり、

円滑な活動につながっています。協力して一つのことをやり遂げる達成感も大きいですね。

入団してからは知り合いが増え、地元の方とのつながりができました。縛られ過ぎてないけどしつかりつながっている、という緩やかな仲間たちと楽しく過ごしています。大工の団員さんに自宅を直してもらったこともあり、私生活でも団員の方々にたくさん助けられています。団にはさまざまな職業の方がいるので、仕事の話を聞いたり尋ねたりできるようなったことも大きな変化でした。これは今の自分の仕事にも大いに役立っています。

防災訓練や提燈祭りの警戒など、違った形でイベントに参加することで、自分の世界が広がりました。消防団は大切な居場所、これからも団の仲間を大事にしていきたいと思います。



入団したことで成長を実感――

所属：団本部（女性消防団）
入団：令和6年4月

きくちいくみ
菊地育実さん



親しみやすい消防団員に――

所属：団本部（女性消防団）
入団：令和4年6月

きくちますみ
菊地真純さん

都内の大学で医療系の勉強をしています。放課後は友人と課題に取り組んだり、週1回アルバイトをしたりしています。

私が高校2年生のとき、姉が消防団に入団しました。姉の活動を見に行った際、心肺蘇生法の実演練習に励んでいる姿に憧れました。そこから活動に興味を持ち、入団に踏み切りました。活動日があらかじめ決まっているので、日常生活とも両立しやすいです。

イベント実施に向けての会議やイベントで見せる実演の練習などを行っています。広報活動を行う時は、恥ずかしがらずに声をかけることを心掛けています。

入団したことで、いざAEDを使うことになった時でも怖がらないくらい自信や度胸が付きましました。また、外出先で体調不良の方を見かけた時に、「助けよう」「手伝おう」と思えるようになり、成長を実感して、入って良かったなと感じました。

これから消防団の活動を広く知ってもらい、団員を増やしていきたいです。



大学で心理学を学びながら、学習塾でアルバイトしています。

きっかけは、大学のサークルの先輩が地元で消防団をしている話を聞いたことです。地域に貢献できる、新しい繋がりが増えるという、「やってみたい！」と感じました。最初はどんな活動を行うのか想像がつかず緊張しましたが、皆さんとても優しく親切で、今は楽しく活動できています。また、女性消防団は活動日が事前に決まっているので、その日避けて学業やアルバイトの予定を入れるようにして両立させています。

消防団では、主に広報活動や心肺蘇生法の実演などを行っています。

なるべく多くの人に声をかけたり、見ている人が分かりやすいように考えながら実演しています。

火災や心肺蘇生法の知識が増えたことは、消防団に入って良かったことの1つです。日常生活でもAEDの設置場所に目がいくようになりました。イベントで小さい子から「かっこいい！」と言ってもらえたことも嬉しかったですね。

消防団の活動や心肺蘇生法の普及活動に努めて、より多くの人に興味を持ってもらうことが目標です。そして、地域の皆さんから親しみやすいと思ってもらえる消防団員になりたいです。